



樹木名板取り付け中

後、早速、思い思いのイラストや樹木名を下書きし、ポスターカラーで色付けしていききました。そして、完成した名板を持って校庭へ出て、前回の復習をしながら三〇本の木に取り付けていきました。

終了後、「一年生が見ても木の名前が分かるようになって良かった」「木にも年齢があることが分かりました」などの感想がありました。

児童達は、毎日目にする校庭の樹木に、自分たちが製作した名板を取り付けることによって、全校で樹木名を覚えたり樹木や森林に関心を持つきっかけがつけられたようです。

【第三回目】  
発想に脱帽！  
ユニークな木工作品も完成！



何ができるかお楽しみ

六月二十三日、第三回目は、「木に親しもう」をテーマに木工クラフトに挑戦しました。

作業を始める前に、木材の特徴などを説明しながら、「木は水に浮く？」の実験をすると、「浮く、浮く」と答えていた児童も、リグナムバイタは沈むことがわかってビックリの様子でした。次に、この日使用する材料のソメイヨシノとウツギの名前の由来や特徴と、道具の安全な使い方も説明しました。

材料を選んだ児童は、職員の指導を受けながら、早速ノコギリ

リヤクラフトナイフを手に作品作りに挑戦しました。見本通りにカブトムシや動物のストラップなどを作ろうとする児童が多い中、試行錯誤をしながらも、自分の発想で立体作品を完成させた男子には、職員も脱帽。

ふりかえりでは、「難しいところもあったけど、世界にひとつだけの作品ができてうれしい」「家族にプレゼントしたい」などの発表があり、思い出に残る「木に親しむ学習」となりました。

リグナムバイタは、世界で一番重い木材として知られ水に沈む。

耐久性、耐摩耗性が高い。

地域における

森林環境教育の推進

〈高知中部署〉

当署では、県立香北青少年の家で開催される森林教室に職員を随時派遣しています。最近の二ヶ月でも、次の五校に向けて講師をつとめてきました。

〆五月二十八日 香美市立香長小学校五年生・一〇名〃

〆六月五日 土佐市立新居小学



職員の話熱心に聞き入る子どもたち

校五年生・一三名〃

〆六月九日 土佐市立高岡第二小学校五年生・一四名〃

〆六月一六日 いの町立川内小学校五年生・二二名〃

〆七月二日 いの町立下八川小学校三〃五年生・一三名〃

この森林教室では、まず森林の持つ水源かん養や、土砂の流出防備など、森林の働きについて絵を使いながらわかりやすく説明します。次に行うプログラムが木工クラフトの作成です。木とのふれあい体験ということで、サクラなどの小枝を使って動物や昆虫の置物を作りました。はじめはノコギリを上手に使えず戸惑っていた子どもも、

遊々の森で

〈香川所〉

六月十七日、高松市立屋島東小学校の三年生二十八名を対象に、同校近くの屋島国有林に設置された「遊々の森」で森林教室を行い、森林の働きについて学習しました。

こつをつかむと次々に個性的な作品を作り上げていきます。

教室終了後のアンケートには、「森林は人間を守ってくれたりするから、壊さないようにしたらいと思うし、自分も汚さないようにしたいです。」「森林は僕たちが生きるために大事だとわかったので大切にしたいです。僕が思っていた以上に森林はたくさんの方に使われているのだとわかりました。」などの感想が書かれています。

ことも多く、地域の子もたちに森林を持つ公益的機能について理解を深めてもらう助となれた事を実感しています。

これからの講師派遣のご要望にできる限りお応えしていきたいと考えています。



水の浸透実験の様子

森林教室では、ペットボトルを使った簡単な装置で、遊々の森の土と運動場の土との水の浸透具合の違いを比較しました。児童たちは、運動場の土があまり水を通さないのに対して、遊々の森の土は水をゆっくりと通すのを目の当たりにして、「運動場の土は全然水を通さん」「なんで？」と興味津々でした。

最後に、遊々の森に設置されたブランコやハンモックなどの遊具で遊びました。小学生らしく、元気いっぱいでした。身近な森の中で学んだり遊んだりすることが少なくなった現代ですが、この遊々の森での体験が森林や環境について考えるきっかけになってくれればよいと思います。

**上手に作れたよ!**  
 (徳島署)

六月一八日に徳島市立芝原児童館にて、児童一五名を対象とした木工教室を開催しました。



森林教室の様子

り付けではとくに子どもたちの個性が光っていました。ドングリに顔を描いてたくさん並べると蝶や花の絵を書いている子がい



安全大会優良事業場表彰

『平成二十一年度  
 労働安全事業場の  
 受賞について』

〔森林技術センター〕

平成二十一年七月一日に開催された、安全大会(局)において、労働安全に関し優良事業場の表彰状を授与されました。

表彰の対象となった期間は、過去二年以上無災害で、かつ実労働延べ時間が二万時間以上(二八、八八九時間、係員一名及び作業班七名)の無災害記録が評価され表彰されました。

当森林技術センターでの作業は、技術開発に関する試験

地調査を主体に、研修作業路の作設、保育間伐・除伐等の造林作業及び試験地周辺の刈払い等補助的作業を実施しています。

近年の災害の傾向を見ると、刃物を取り扱う作業中に手工具の誤った取り扱いにより、発生する災害が多いように見受けられます。

これらの災害は、基本的な作業動作及び作業手順を遵守していれば防げるものが殆どと考えております。このことから、我々も基本動作の重要性を認識し、遵守しているところではあります。

今後も無災害を更に継続できるよう、森林技術センター全職員挙げて災害のない明るい職場作りに向け取り組んでいきたいと考えております。

また、試験地における関係署・機関等には日頃から御協力頂き感謝申し上げます。引き続き御協力方お願いいたします。



間伐作業の様子

「森ヶ内山ふれあい事業」にボランティアが集合

〔四万十森林管理署〕

天気にも恵まれた六月二十五日、森ヶ内山国有林三〇三八林班で「しこくの森づくりに参加する会」(山中巨司代表)三十四名のボランティアの方々と四十森林管理署の職員十一名が参加して、保育間伐作業と歩道修理作業を実施しました。

この森ヶ内山ふれあい事業については、昨年度協定を締結して間伐作業を実施しましたが、今年度は保育間伐作業等が

二回計画されています。

当日は、今年度一回目の取組ということで、作業着手前に窪川森林事務所の前席森林官より間伐作業等における注意事項等を説明し、その後三〇四名が一組となって作業を実施しました。

日頃使い慣れない鋸、鉋等を使用し、汗だくになりながら約一haの保育間伐作業と歩道修理を行い、その後、近くの桜公園に移動して参加者全員で昼食を取りました。

最後に代表から、本日の作業に対するお礼と十月に実施する二回目の取り組みに対する協力依頼等の挨拶で締めくくり、現地解散となりました。

ふれあいの森で

下刈り作業

〔高知中部署〕

六月六日、物部川源流部に位置する別府山国有林のふれあいの森「運輸労働連出会の森」で、ボランティア二三名が下刈り作業を行いました。

当日は、好天に恵まれ、涼しい風が吹くなか、参加者たちは「どれが植えた木かわからん。」



ホオノキ板の手作り時計

「見つけた。」などと口にしなから、植栽木を傷つけないように細心の注意を払いながら作業を進めていきました。

協定期間も五年目になり、すっかりベテランの参加者もいて、二時間あまりで区域全域を刈り払うことが出来ました。

翌日には、当署駐車場にて木工教室を行い、ホオノキの板に、各々で文字盤を飾り付けた手作り時計を作成しました。

今年度で協定期間は満了となりますが、今までの経験を生かし、これからも何らかのかたちで、森林を育てる活動にご協力いただけることを願っています。

職員定期表彰式

〔総務課〕

平成二二年度国有林野事業職員定期表彰式を、七月九日(日)に大会議室で行いました。

表彰式では、篠田局長から受賞者の長年にわたる職務への努力と受賞者を支えてこられた家族の方々への労いの言葉とともに、「長年に亘り培われた豊富な見識と経験を活かして、開かれた「国民の森林」に向けて、また、「美しい森林づくり」を推進するために引き続き「尽力願いたい」との式辞があり、受賞者一人一人に表彰状が手渡され、代表して、愛媛署の狩野誠さんから「本日を契機に新たな気持ちで業務に邁進することを誓います」との答辞がありました。

永年勤続表彰受賞者

○一級精勤章(二五名)

- |        |       |
|--------|-------|
| 総務部    | 高岡 周二 |
| 計画部    | 柳園 幸徳 |
| 森林整備部  | 福吉 修二 |
| 技術センター | 森 孝幸  |
| 徳島署    | 北代 典史 |
| 愛媛署    | 狩野 誠  |
|        | 徳留 学  |
|        | 河野 潤一 |
|        | 横山 満  |



○二級精勤章(四名)

- |        |       |
|--------|-------|
| 技術センター | 川村 栄二 |
| 徳島署    | 後藤 和昭 |
| 愛媛署    | 山内 賢  |
| 嶺北署    | 太田 勝稔 |

安芸署

嶺北署

四万十署

- |   |       |
|---|-------|
| 技 | 門脇 博幸 |
| 技 | 松山 浩信 |
| 技 | 外山 正明 |
| 基 | 今城 幸男 |
| 基 | 中平 敏久 |
| 技 | 本田 雄二 |
| 技 | 野田 満浩 |
| 事 | 木原 久明 |
| 事 | 土井 均  |
| 技 | 後藤 正美 |
| 基 | 正岡 勇夫 |
| 基 | 近藤 正信 |
| 基 | 島田 朝彰 |
| 基 | 田邊 和男 |
| 基 | 木下 英年 |
| 基 | 中元 久夫 |



## 第5回

# 森林の俳句コンテスト 作品募集

森林はさまざまな働きをして、私たちの快適な生活を支えてくれます。  
私たちの暮らしに深くむすびついている森林の働きや林業について俳句を作ってみませんか。  
小中学生のみなさんの応募をお待ちしております。

**主催** 四国森林管理局・森林の俳句コンテスト実行委員会  
**協賛** (社)国土緑化推進機構、(財)日本森林林業振興会高知支部  
**後援** 高知県教育委員会、徳島県教育委員会、香川県教育委員会  
愛媛県教育委員会、高知新聞社、徳島新聞社、四国新聞社  
愛媛新聞社

**受付期間** 平成21年6月23日(火)～9月11日(金)「当日消印有効」

**テーマ** 「森林・林業」

**部門** 小学生の部、中学生の部

**応募方法**

- メールまたは四国森林管理局ホームページ上から、もしくは官製はがき、FAXで応募ください。
- 学校単位で応募される場合は、学校名、氏名、学年を明記してください。
- 個人で応募される場合は、住所、氏名、学校名、電話番号を明記してください。(作品及び氏名にはふりがなをつけてください)
- 応募点数1人2句以内。
- 応募作品は本人が創作した未発表のものに限ります。

**応募先**

- はがき 〒780-8528 高知市丸ノ内1-3-30 四国森林管理局「俳句コンテスト」係
- Eメール shikoku\_soumu@rinya.maff.go.jp
- FAX 088-821-4834

**選考・発表**

- 選者 森 武司、松林 朝蒼
- 入賞者には平成21年10月中に通知します。選外の通知はしません。

**表彰**

- 四国森林管理局長賞 各部門 1作品(賞状、記念品)
- 優秀賞 各部門 4作品(賞状、記念品)
- その他、秀逸、佳作を選出。ただし、1人1賞とします。
- 平成21年11月上旬

**その他** 入賞作品に関する一切の権利は主催者側に帰属するものとします。  
個人情報については厳重に管理し、利用目的以外には使用しません。



問い合わせ先



四国森林管理局総務課「俳句コンテスト」係  
TEL 088-821-2000